

# 2012年度基準改定 自己点検書

一般社団法人 日本技術者教育認定機構  
(JABEE)

[www.jabee.org](http://www.jabee.org)

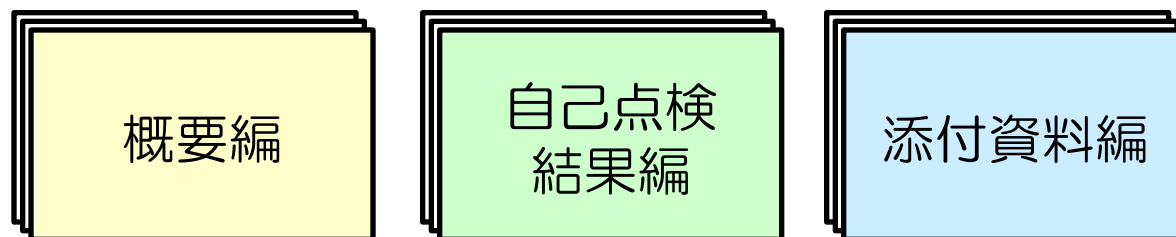
# 自己点検書変更の趣旨（1/3）

## 1. 作成の負荷／審査の負荷の低減

### ■ 自己点検結果の記載形式の統一(Excelシート)

- ✓ 自己点検結果の記載内容を表形式とし、シンプルな記載内容とすることで、自己点検書全体の分量の削減を図った。
- ✓ 自己点検結果の記載形式をプログラム点検書の形式に合わせることにより、両者の点検項目の対応をとり易くした。
- ✓ 上記に伴い、現行の表1(自己点検総括表)を廃止した。

### 自己点検書の構成



- 添付資料(引用・裏付資料)の見直し
  - ✓ 表2～表9を見直し、新たな表1～表6を定義した。
  - ✓ Webで参照できる資料はURLのみを示せば良く、添付は不要とした。特に重要な根拠資料は、プログラム運営組織の判断で添付資料に含めることも可とした。
  - ✓ 個々の教員のデータは、基本的には添付資料に含める必要はない。必要とされる場合でも、その提示方法、内容は特に指定せず、プログラム運営組織により判断することとした。  
(個人情報を含むデータは添付資料に含まないこと。)
  - ✓ プログラム関係数値データは参考資料とし、内容の見直しを行った。

## 2. 作成、配布のための費用低減

### ■ 電子ファイルによる提出

✓ JABEE指定のサーバーにアップロードする。

注：状況によっては別の方法（CD-R化等）での提出になる可能性もあります。

## 1. 表紙

- 対応基準、適用年度の表記内容が、予定している審査に適用する認定基準に対応していることを確認する。
- 高等教育機関名、プログラム名、Program Title、希望認定分野名、審査分類に加えて、希望認定種別名、及び新規審査の場合は、審査前年度からの認定開始希望の有無を記載する。



今回追加

### 1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

(2) プログラム名

(3) Program Title

(4) 学位名


(5) 連絡先

- 旧基準対応の自己点検書の「(6)プログラム関係数値データ」は添付資料編の参考資料へ移動。
- 建築系学士修士課程認定種別は学士／修士課程を一貫したプログラムとして記載する。
- 上記以外は変更なし。

## 1.2 プログラム概要

- 新規審査で「認定の有効期間の開始日を、審査を受けた年度の前年度の4月1日とする」ことを希望するか否かを明記し、希望したプログラムは、「認定申請にあたっての留意点」の8.(b).(c)の条件についても説明を加える。
- 他の記載内容（例示）
  1. プログラムの沿革（これまでの学科・コース改組の経緯など）
  2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係
  3. 学習・教育到達目標の特徴や水準 ← **今回追加**
  4. 関連する他の教育プログラム(関連学科、関連コース等)との関係
  5. カリキュラム上の特色
  6. その他の特色

## 1.3 最近の教育改善の状況

- 旧基準対応の「前回受審時からの改善・変更」は自己点検結果編に記載するよう変更。
- 最近の教育改善の状況  **今回追加**
  - ※学生の学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果に基づき、社会の変化に対応して教育活動の点検をどのように実施し、改善必要事項にどう対応しているか。
  - ※最近の教育改善の状況について、PRしたい点も含めて簡潔に説明。過去の審査での指摘事項に対して取られた教育改善などについても言及。
  - ※教育改善のための研究活動、それに関する論文発表や对外発表、当該プログラムの教育活動に関連して開催したシンポジウムや他の教育機関などからの講演依頼等。

## 1.4 自己点検結果編の総括文 ←今回追加

- 自己点検結果編を総括し、認定基準に対するプログラム全般の状況について簡単に説明。認定基準に対する適合度が特に高い項目や、今後さらに強化が必要な項目など、認定審査を行う際にポイントとなる事項についても言及。



# 自己点検結果編

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望に配慮されたものであること。さらに、その技術者像が学内外に公開され、また、当該プログラム関係者及び学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？				
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？				
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？				
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？				
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？				
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？				

説明を簡潔に記入  
\* 多くても200文字程度

(1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応  
(2) 前回受審時の「C：懸念」に対する対応  
(3) その他の前回受審時からの改善、変更  
\* 多くても200文字程度  
\* 新規審査の場合は記入不要

白色のセルのみに記入

根拠となる資料の名称と所在を記入。  
・ 添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入。  
・ インターネット上でアクセスできるものについてはURLを記入。その場合でも、必要であれば自己点検書の添付資料に含める。

プルダウンリストから選択  
◎：認定基準の要求事項を満し、さらにそれを上回る取り組みを行っている  
○：認定基準の要求事項を満している  
△：認定基準の要求事項を概ね満しているが、改善の余地がある

- 根拠資料のうち、時間をかけて精査する必要のある資料は添付資料として自己点検書に添付し、現地で確認すれば十分である資料や、個人情報が含まれるなど自己点検書に添付することに差し支えがある資料については「実地審査閲覧資料」として実地審査時に提示する。また、分量の多いものは、代表例を自己点検書に添付し、全体は実地審査閲覧資料としてもかまわない。
- 根拠資料のうち、ホームページなどで公開しているものについては、「自己点検結果編」の「根拠資料」欄にそのURLを記載すれば自己点検書に添付する必要はない。URLを記載する場合はハイパーリンクを設定し、閲覧資料のページに直接行けるようなアドレスを指定する。なお、公開資料でも特に重要な根拠資料については、プログラム運営組織の判断で添付資料に含めることができる。

- 根拠資料は、プログラム運営組織が必要と判断して準備することが基本。また、これらの根拠資料は、教育点検に基づいて継続的改善を実行していくためにも蓄積して利用すべき基礎資料であり、プログラム自身が必要としている資料である点にも留意する必要がある。

- どのような根拠資料をどの程度準備するかについては、プログラム運営組織が主体的に判断して決定して構わない。学習・教育の成果を示すための成績資料（試験の答案やレポートなど）については、プログラムの全学年次にわたる科目の中で学習・教育到達目標の達成の証明に必要な科目について、原則としてそれぞれの科目の主要な成績資料の合格最低クラスの代表的なものを最近の2年分準備すれば良い。「代表的なもの」とは、プログラム運営組織が当該科目の達成度を適切に評価していることを証明するために必要と判断して抽出した成績資料を意図している。

なお、建築系学士修士課程認定種別の場合、作品／答案等は、主要授業科目について少なくとも上位クラス、中位クラス、及び合格最低クラスの答案等の代表的なものの最近2年分を、実地審査時に用意しておくことが原則である。

## 過去6年間の審査における審査結果

- 認定の可否とともに送付された「審査結果」（表紙のタイトルは、2004年度から2006年度までは「最終審査結果報告」、2007年度以降は「審査結果」となっている）のコピーを表紙も含めて添付する。今回が新規審査の場合は添付する必要はない。

表1：学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応

- ✓ 各学習・教育到達目標〔(A)、(B)、(C) ---〕が基準1の(2)の知識・能力〔(a)～(i)〕を主体的に含んでいる場合には◎印を、付随的に含んでいる場合には○印を記入する。

基準1(2)の 知識・能力 学習・教育 到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
				(1)	(2)	(3)	---					
(A)							---					
(B)												
(C)												
(D)												
(E)												

## 表2：学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準

- ✓ 学習・教育到達目標の小項目と基準1の(a)-(i)の対応の程度については、主体的に対応する場合は◎を、付随的に対応する場合は○を付す。
- ✓ 表2を作成するためのテンプレート用共通Excelファイルを使用することを推奨。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目(注)	関連する基準1の(a)～(i)の項目	関連する基準1の(a)～(i)の対応	評価方法および評価基準
(A)	(A-1)	(a)	◎	評価方法(A-1)・・・・・・・・・・で評価する。
	(A-2)	(a)	○	評価方法(A-2)・・・・・・・・・・で評価する。
(B)		(a) (b)	◎ ○	評価方法(B)・・・・・・・・・・で評価する。
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

注：小項目の欄は、小項目がある場合記入、ない場合は空欄とする。

## 表3：学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針 の説明

- ✓ 学習・教育到達目標の各項目ごとに、それをどのように達成させ、その達成度をどのように評価するのかの基本的方針について、表4に示す授業科目の流れを設定した意図が理解できるように、簡潔に説明する。

学習・教育到達目標	カリキュラム設計方針
(A) ○○○○	
(B) ○○○○	
(C) ○○○○	
(D) ○○○○	



## 表4：学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

- ✓ 学習・教育到達目標の各項目ごとに、関連する授業科目を学期ごとに示し、授業科目間の内容的な関連を線で結んで示す。また、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにあるものに○を、特に重要な位置づけにあるものには◎を付す。
- ✓ 建築系学士修士課程認定種別の場合は学士課程と修士課程を合わせた6年間のカリキュラムを記載する。

学習・教育 到達目標	授 業 科 目 名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	授業科目A ↓ 授業科目B ↓ 授業科目C	→ 授業科目D ↓ → 授業科目E(○)	→ 授業科目F(◎)	→ 授業科目G(○)		→ 授業科目H(◎)		→ 授業科目I(◎)
(B)				→ 授業科目J		→ 授業科目H(○) ↓ → 授業科目K(◎)		→ 授業科目L(◎) ↓ → 授業科目M
(C)	→ 授業科目A	→ 授業科目D ↓ → 授業科目N	→ 授業科目O(◎) ↓ → 授業科目P(◎)	→ 授業科目R(◎)	→ 授業科目T ↓ → 授業科目U		→ 授業科目S(◎) ↓ → 授業科目V(◎)	→ 授業科目W(◎)
				→ 授業科目Q ↓ → 授業科目G				

※ 修士課程プログラムの場合は1年及び2年のみ記載する。

※ 修士論文研究等については、主要プロセス（調査計画、制作/実験、中間報告、報告書作成、報告書審査等）を記入し、関連する授業科目との関連を矢印等で示す。

- ✓ 自己点検書の添付資料の一覧表（表5）及び実地審査の際に閲覧できる資料の一覧表（表6）を作成し、整理番号を付す。記載する順序は、基準の項目の順序に対応していることが理想だが、対応関係が前後しているものが含まれても構わない。

## 表5：自己点検書添付資料 の一覧表

（下記の番号 T01、T02、T03 に対する資料名は例示）

整理番号	添付資料名
T01	学科案内の「育成すべき技術者像」関連部分抜粋
T02	教育改善年次報告書（過去5年分）抜粋
T03	

## 表6：実地審査閲覧資料 の一覧表

（下記の番号 J01、J02、J03 に対する資料名は例示）

整理番号	実地審査閲覧資料名
J01	卒業論文
J02	数学の成績関連資料
J03	物理基礎の成績関連資料

## 参考資料：プログラム関係数値データ

✓ JABEEが統計データとして使用するものであり、可能な範囲でデータを添付。

### 学士課程用

		(なるべく過去6年間) 年度	
学生数情報	学部全学生数		
	学科やコースの一部をプログラムとして申請している場合	学科やコース全体への入学者数	
		// 定員数	
	申請プログラムへの入学者数あるいは配属者数		
	// 定員数		
	他プログラムからの編入者数		
	申請プログラムの全在籍者数		
プログラム修了者数			
教職員情報	プログラム関係	専任教員数	
	//	非常勤教員数	
	//	TA数	
	プログラム関係のその他職員等の教育支援者数		
カリキュラム情報	卒業に必要な単位数		
	専門関係科目単位数		
	専門基礎関係科目 (数学、自然科学、情報など) 単位数		
	語学科目単位数		
	語学を除く教養関係科目単位数		
	デザイン能力に関する教育の割合		
	PBL (Problem Based Learning) などのグループ学習の割合		

### 修士課程用

		(なるべく過去6年間) 年度	
学生数情報	研究科、研究院等の全学生数		
	専攻やコースの一部をプログラムとして申請している場合	専攻やコース全体への入学者数	
		// 定員数	
	申請プログラムへの入学者数あるいは配属者数		
	// 定員数		
	他プログラムからの編入者数		
	他大学院等からの編入者数		
申請プログラムの全在籍者数			
プログラム修了者数			
教職員情報	プログラム関係	専任教員数	
	//	非常勤教員数	
カリキュラム情報	修了に必要な単位数		
	専門関係必修科目単位数		
	選択科目単位数		
	デザイン能力に関する教育の割合		
	PBL (Problem Based Learning) などのグループ学習の割合		

- 下表に示す提出形態に対応して電子ファイル化し、JABEEが指定するサーバーへアップロードする。

注：状況によっては別の方法（CD-R化等）での提出になる可能性もあります。

資料名	テンプレート	提出形態
概要編	MS-Word ファイル	・ テンプレートに必要事項を記入し、PDF ファイル形式で提出
自己点検結果編	MS-Excel ファイル	・ テンプレートに必要事項を記入し、PDF ファイル形式で提出
添付資料編	MS-Word ファイル	・ テンプレートに必要事項を記入し、PDF ファイルに変換したものに、その他の添付 資料をPDF に変換したものを合体して提出
添付資料編 表2	MS-Excel ファイル	・ テンプレートに必要事項を記入の上、 MS-Excel ファイルのまま提出 ・ 前項に加えて、上記のMS-Excel ファイル をPDF ファイルに変換し、添付資料編に 表2として加え提出

- 旧基準での受審を希望する場合の自己点検書は、旧基準用の自己点検書形式（従来の形式）により作成願います。その場合の提出形式（電子ファイル／紙媒体）、提出方法等は別途決定し、公表予定です。
- 「認定・審査の手順と方法」の変更に対応して、自己点検書の提出期限が早まりました。  
従来：7月末 → 今後：7月中旬  
【2012年度は7月17日】